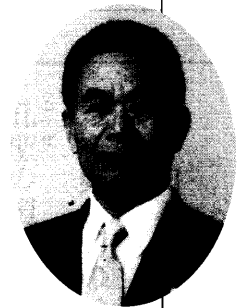


会長メッセージ

「勇気を持って」

『八月を迎えて・東京五輪に思う』

8月は一年の中でも日本人にとって、盂蘭盆・終戦記念日・夏の高校野球が重なり、とりわけ国の歴史や、先祖、郷土を考える事の多い特別な月ですが、今年はここに東京オリンピック・パラリンピックが加わり、より特別な年になりました。残念なのはこれを契機にコロナ禍の沈滞ムードを一気に吹き飛ばし、再び活気を取り戻したいとの願いは届かず、大半の競技が無観客という極めて異例な中での開催となりました。然し開幕前は開催そのものを否定する声もありましたが、いざ蓋を開けると、テレビを通じて連日のアスリートの活躍に拍手をし、数々の感動場面を共感することができました。日本勢も素晴らしい結果でしたが、試合後には勝ち負け関係なく国を越えて互いを称え合う姿、特にパラリンピックでは障害をものともせず全力で立



総本部会長 地藏哲皚

ち向かう姿に、コロナ禍で落ち込んでいる我々に大いなる勇気を与えてくれました。すべてが終わって今、世界からは困難な情勢を押して開催してくれた日本への感謝の言葉が満ち溢れています。7年前にはまさこんなひどい環境の中での開催など誰も予想しませんでした。今確かなことは、東京五輪を開催したからこそ、世界中で感動や興奮を分かち合えたという事実です。「歴史は勝者の記録」と言われますが、何年か後の世界史には「世界的なパンデミックの中で五輪をやり抜いた国」と賛辞されるでしょう。只、五輪と離れた現実には、コロナ禍は一向に衰えず新たな局面に呻吟しています。この先も安心と賑わいのある日常を取り戻すにはまだ我慢が強いられいますが、肝心なことは、目標を見失わず確固たる信念とやり抜く強い精神を持って、皆が心一つにして対処する事、その大切さを確認させられた8月でした。